

都市部における災害に強く、歩行者が安全で安心して通行できる基盤整備（重点）（防災・安全）

群馬県の現状

群馬県では、各市町村が定める通学路交通安全プログラムに基づき、通学路の安全対策を進めているが、歩道未整備など、歩行者の通行に危険な箇所が依然として残っている状態である。

また、幅員狭小箇所の解消や、無電柱化により、災害時の安全性向上を進めているが、災害時の通行が困難になる恐れのある箇所が多く存在している。

課題

小学校の指定通学路や中学校、高校への通学経路等における危険箇所の交通安全対策を重点的に進める必要がある。

また、災害時の通行経路が寸断される恐れのある箇所で、拡幅、無電柱化による防災対策を進める必要がある。

目的

都市部において、災害時に強く、歩行者が安全で安心して通行できる道路整備を進めることで、安心して生活・移動できる環境づくりに寄与する。

整備効果の検証

A01-009（都）幸橋線(17-9)

桐生市立北小学校の指定通学路となっている事業区間について、桐生市通学路交通安全プログラムに基づく対策として、現道拡幅による自転車歩行者道の整備を行い、通学児童をはじめとした歩行者の安全な通行が確保された。

また、同時に無電柱化を実施し、災害時における電柱倒壊を防ぎ、災害時の安全な通行が確保するとともに、「桐生市歴史的風致維持向上計画」の重点区域における歴史的なまちなみや景観の創出に寄与した。

事業の指標と成果報告

指標1：安全で安心な通行ができる歩道が設置された道路延長を4800m増加させる。

現況:0m(H28) ⇒ 最終目標:4800m(R2)

⇒ 最終実績:3452m(R2)

- 歩道が設置された道路延長は、歩道整備が3路線（馬見塚芝宮線、県庁群大線、幸橋線）で完了したものの、用地買収の難航等により、歩道整備が遅れた路線があったため、令和2年度時点では最終目標が達成出来なかった。

指標2：歩行者の安全性が向上した小学校数を5校増加させる。

現況:0校(H28) ⇒ 最終目標: 5校(R2)

⇒ 最終実績:10校(R2)

- 歩行者の安全性が向上した小学校数は、上新田前箱田線で計画より早く歩道整備に着手出来たこと等により、最終目標を上回って達成出来た。

今後の方針

- 事業が遅れ、歩道整備や拡幅、無電柱化が未完了となっている路線については、引き続き、社会資本整備総合交付金等を活用し、計画的に事業を推進する。

都市部における災害に強く、歩行者が安全で安心して通行できる基盤整備（重点）（防災・安全）

整備効果事例

事例①（都）幸橋線

■位置図

事業箇所：桐生市仲町



■整備効果

整備前



桐生市立北小学校の通学路に指定されているが、歩道がなく、通学児童をはじめとした歩行者の通行が危険な状態であった。

整備後

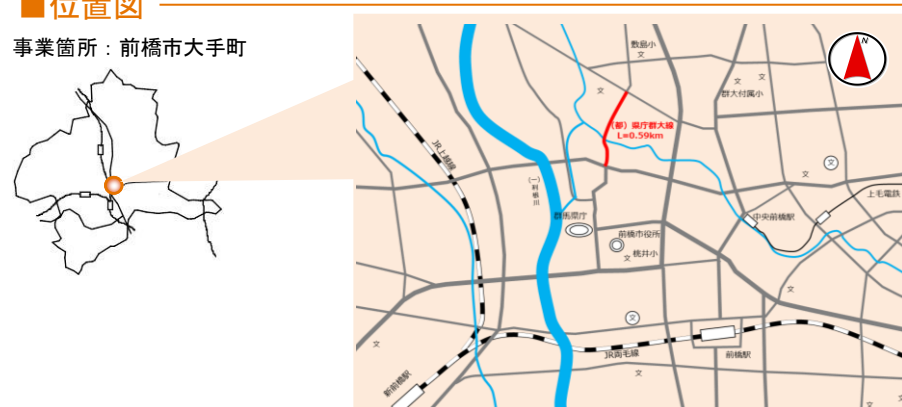


自転車歩行者道が設置され、安全な通学経路が確保された。また、無電柱化により、災害時の安全性が向上したほか、歴史的なまちなみ創出に寄与した。

事例②（都）県庁群大線

■位置図

事業箇所：前橋市大手町



■整備効果

整備前



前橋市立敷島小学校の通学路に指定されているが、歩道がなく、通学児童をはじめとした歩行者の通行が危険な状態であった。

整備後



歩道・矢羽根型路面表示が設置され、安全な通学経路が確保された。また、車道の拡幅や無電柱化により、災害時の安全性が向上した。